

謹賀

来
新年

年頭のごあいさつ



高萩市長
小田木 真代

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、平成27年の新春をお健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、国においてはアベノミクス効果により、15年ぶりにデフレから脱却し、景気は回復基調にあると言われておりましたが、その効果を地方では実感できる状況では無く、4月の消費税8%増税など、市民生活はまだまだ厳しい状況にあると感じております。また、人口減少問題がクローズアップされ、大都市と地方の格差が注目された年でもありました。

一方、昨年高萩市は市制施行60周年の節目の年でありました。60年を節目とし市政発展の決意を新たにしたいところであります。

私は、昨年3月2日に市長に就任を致しましたが、早いもので10カ月が経過致しました。

高萩市創生のスタートの年に

この間「市民のために、市民とともに」を基本理念とし、「安全な街づくり」「安心な街づくり」「活力ある街づくり」を柱として市政運営に取り組んできたところであります。

本市にとりまして震災からの復興が最重要課題と捉え、小中学校の耐震化、津波に対応する避難階段の整備、戸別受信機の配備地域の拡大や、高萩市総合防災計画の見直しを行うほか、都市計画道路の見直しに着手し、災害時の避難や緊急輸送道路の確保等、市民の安全安心確保に向けた事業を進めて参りました。

また、復興のシンボルとなる市庁舎は、現在基本設計の段階にあり、今後市民の皆様へ愛される庁舎となるよう、建設に向け事業を進めて参りたいと考えております。

現在全国的な課題となっている人口減少問題は、本市にとりましても重要課題の一つである事から、就任後直ちに、出会い・結婚・妊娠出産・子育ての各ステージごとに総合的な支援策を取り組み始めたところであります。

また、震災の際には地域の絆の重要性を実感した一方、生活の多様化や高齢化等により、地域の連帯感が希薄化している事も大きな課題であります。現在、地域コミュニティの再構築に向けた指針作りを行っているところであり、地域の力、市民力が発揮できる環境を整えて参りたいと考えております。

いとと考えております。

真の復興は、震災以前より活力ある街とする事であり、市民が心の豊かさを実感できる事であると思っております。

子どもを産み育てやすい環境を整え、企業誘致により働く場を確保し、さらに高齢化社会に対応するため、在宅医療・介護連携拠点事業をより充実させる等、誰もが住んで良かった、住み続けていきたいと感じていただける街づくりを進めて参りたいと考えております。

国において昨年11月に地方創生関連法案が成立し、地方が自ら考え、責任をもって街づくりに取り組むことが重要となっております。まさに地域の力を示す時であります。

本年を、高萩市創生のスタートの年と位置付け、愛する郷土高萩のため、これまで培ってきた経験や知識、人脈を最大限活かし、責任ある行政を推進し、市民の皆様とともに、未来に希望の持てる高萩を創って参る所存でありますので、皆様の一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

結びに今年一年が皆様にとりまして、素晴らしい年となりますようご祈念申し上げ、年頭のあいさつとさせていただきます。



11月23日 市制施行60周年祝う

記念式典開催

高萩市の市制施行60周年を記念する式典が11月23日、文化会館で開かれ、市民、県内外市町村長、関係者ら約600人がこの節目を祝いました。式辞で小田木市長は、これまでの60年を振り返り、先人に感謝申し上げるとともに、安全安心な街づくりを目指し、責任ある行政に取り組み決意を新たにしました。また、市政功労者へ感謝状を贈呈。アトラクションでは、パンチ佐藤氏による講演や、フラガールによる演奏が披露され盛んに拍手が送られていました。



式辞を述べる小田木市長



はぎまるダンス上演



萩っ子作文発表



特別講演 パンチ佐藤氏



フラガールによる演奏

市政功労者感謝状贈呈

(順不同・敬称略)

- 1 特別市政功労 佐川 侑崖 (物故)
- 2 市政功労

飯能市友好都市交流委員会
飯能市自治会連合会
震災復興元氣市実行委員会
飯能市観光協会
角館の観光行事実行委員会
新庄市青少年育成推進委員会
新賀医師会
高萩薬剤師会
高萩ライオンズクラブ
高萩ロータリークラブ
上田 良三
金木秀鳳カラオケ会
株式会社飯塚電機工業
高萩市高校生会



飯能市表彰団体

萩っ子作品表彰

(順不同・敬称略)

「市制施行60周年記念高萩の未来」

絵画作品展

市長賞

松岡中1年 小野迅人
秋山小2年 渡部 終
秋山小2年 宇佐美悠生

アイ・ラブ・高萩萩っ子作文コンクール

市長賞

松岡小5年 永沼日子
高萩小5年 小川花佳

教育長賞

秋山小5年 佐々木武斗
君田小5年 秋山李香

新高萩大使に平田篤州氏

あつくに

60周年記念式典で、産経新聞厚生文化事業団理事長の平田篤州さんが4人目の高萩大使に委嘱されました。高萩大使とは、高萩市に縁があり、様々な分野で活躍する人で市のPRなどを行ってもらうこととなります。平田さんは少年時代を高萩市で育ち、大学卒業後、産経新聞社に入社。政治部デスク、論説委員、東京本社社会部長、産経新聞社東京執行役員総合企画室室長等を歴任。また、フジテレビ日曜夜の情報番組「Mr.サンデー」や朝の情報番組「とくダネ!」のコメントーターなどを務められました。



新高萩大使 平田篤州氏(右)

2012年10月から現職の社会福祉法人産経新聞厚生文化事業団理事長。福祉の現場を応援し、福祉のイメージを一新する季刊誌「渚の風」を創刊するなど、精力的に活動を続けておられます。

11月30日 総合防災訓練を実施



大規模災害を想定した総合防災訓練が行われ、市民、自主防災組織、警察官、市消防団、市職員など約850人が参加し、それぞれの役割を確認しました。訓練は大雨特別警報や高潮特別警報が発令された想定。参加者は避難場所までの経路の確認などを行いました。メイン会場となった秋山小学校では、初期消火訓練、ロープワーク、煙体験などのほか、炊き出しの訓練なども行いました。小田木市長は「どのようなりすかがあるのかを確認し、自身の防災に活かすとともに、日頃から地域の中で声を掛け合って災害に備えてほしい」と講評しました。また、沿岸部の東小学校、高萩中学校、市営住宅では、津波避難階段で、津波や高潮の際に備え解錠訓練や集団で屋上まで上る際の時間を確認する訓練を行いました。高萩市では沿岸部に津波避難階段の整備を進めており、来年度までに全10ヶ所完成する予定です。